

株主メモ

証券コード	3048
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月
上記基準日	毎年8月31日
配当金受領株主確定日	毎年8月31日 (ただし、中間配当を行う場合は2月末日)
株式の売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式事務に関するお問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告の掲載方法	当社ホームページ (http://www.biccamera.co.jp/ir/library/index4.html) に掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。



<http://www.biccamera.co.jp/ir/index.html>
当社株主・投資家向サイトでは決算短信、IRニュース、財務情報など、様々な情報を発信しております。

株主優待情報

当社店舗でご利用いただける株主お買物優待券を、毎年8月31日現在の当社株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主様に対し、年1回贈呈いたします。



ご所有株式数	ご優待金額
1株以上 5株未満	3,000円(1,000円券 3枚)
5株以上 10株未満	5,000円(1,000円券 5枚)
10株以上 100株未満	10,000円(1,000円券 10枚)
100株以上	50,000円(1,000円券 50枚)

ご利用方法

- 優待券のご利用に関しては、当社におけるお買上げ代金のお支払いにご利用いただけます。
- 優待券のご利用に伴い、ビックポイントカードをお持ちの株主様には、現金でのお支払と同様に1ポイント1円に換算して次のお買い物にご利用いただけるビックポイントをお付けいたします。
- ネットショッピングサイト「ビックカメラ.com(※)」でもご利用いただけます。ご注文後優待券をご郵送いただき、対象金額をキャッシュバックさせていただきます。詳しくは、当社ホームページ内IR情報(株主優待制度)をご確認ください。

※ビックカメラ.com [http://www.biccamera.com/]

ビックカメラ

東京都豊島区高田三丁目23番23号



ビックカメラ

証券コード:3048

Data File

当期 平成18年9月1日～平成19年8月31日

前期比

連結売上高

542,294百万円

+ 12.9%

連結経常利益

17,448百万円

+ 37.1%

連結当期純利益

8,146百万円

+ 35.6%

ビックカメラ企業行動憲章(抜粋)

ビックカメラは、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって、「お客様第一主義を実践し、最高のサービスをお客様に提供することで社会に貢献する」との経営理念のもと、「一人ひとりのお客様を大切に、最高の満足と喜びを感じていただけるよう、笑顔と真心を込めた言葉で接します」をスローガンに、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して活動を続けてまいります。

CONTENTS

- 2 ----- 株主の皆様へ
- 3～6 ----- 財務諸表
- 7～9 ----- トピックス
- 10 ----- 会社概要／株式の状況

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に設備投資が増加、また雇用情勢の改善などによる個人消費の改善がみられるなど、景気は概ね緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような環境下、当社グループは、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」の一層の強化を目指して、価格・品揃え・接客・サービス・店作りにおいて、お客様に更にご満足いただけるよう改善を重ねてまいりました。

店舗展開につきましては、当社は「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗を2店開店しております。平成18年9月にJR川崎駅前のラゾーナ川崎プラザ内に「ビックカメラ ラゾーナ川崎店」を、平成19年8月にJR京都駅直結の「ビックカメラ JR京都駅店」を開店いたしました。連結子会社である株式会社ソフマップにおいては、平成19年9月に「ソフマップ 秋葉原本館」を開店いたしました。また、平成19年4月に「ビックカメラ 池袋東口総合館」及び「ビックカメラ 池袋東口カメラ館」を、平成19年6月に「ビックカメラ 池袋本店」のリニューアルオープンをいたしました。

この他、物流の拡大に対応すべく東松山センター（埼玉県東松山市）を平成18年10月に稼働開始し、他センターの業務を集約し、平成19年9月には新物流システムを導入いたしました。

以上の結果、株式会社ソフマップが通年で業績に寄与したこともあり、当連結会計年度の売上高は5,422億94百万円（前期比12.9%増）となりました。営業損益、経常損益についても効率的な業務運営を行った結果、営業利益は160億2百万円（前期比32.4%増）、経常利益は174億48百万円（前期比37.1%増）となりました。また、当連結会計年度において特別利益として貸倒引当金戻入益16億94百万円、特別損失として投資有価証券評価損26億78百万円などを計上した結果、当期純利益は81億46百万円（前期比35.6%増）となりました。

当社グループを取り巻く環境は、同業他社の出店や価格競争等が続くものと予想されます。こうした状況下において、当社グループは①市場シェアの拡大 ②顧客の拡大と利用頻度の向上 ③コスト削減、在庫管理の徹底 ④業務提携の推進の課題に取り組むことにより差別化を図り、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して、お客様のご支持をいただいきたいと考えております。

今後とも株主の皆様には何卒倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 宮嶋 宏幸

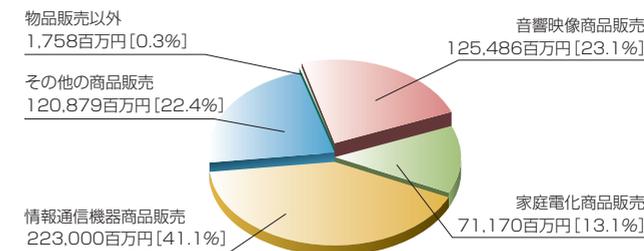
連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 平成19年8月31日現在	前期 平成18年8月31日現在	科目	当期 平成19年8月31日現在	前期 平成18年8月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	97,101	93,262	流動負債	116,164	105,932
現金及び預金	24,485	35,300	固定負債	33,199	41,443
売掛金	14,780	13,413	負債合計	149,363	147,376
たな卸資産	36,121	30,354	純資産の部		
繰延税金資産	5,533	5,334	株主資本	47,617	40,221
未収入金	13,313	—	資本金	12,548	12,548
その他	2,905	8,874	資本剰余金	12,122	12,122
貸倒引当金	△39	△16	利益剰余金	22,947	15,551
固定資産	104,736	97,376	評価・換算差額等	2,669	1,655
有形固定資産	45,570	40,556	少数株主持分	2,187	1,385
無形固定資産	5,119	4,876	純資産合計	52,474	43,262
投資その他の資産	54,047	51,943	負債純資産合計	201,838	190,639
資産合計	201,838	190,639			

連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 自平成18年9月1日 至平成19年8月31日	前期 自平成17年9月1日 至平成18年8月31日
売上高	542,294	480,453
売上原価	411,552	364,296
売上総利益	130,742	116,156
販売費及び一般管理費	114,739	104,072
営業利益	16,002	12,084
営業外収益	3,873	3,386
営業外費用	2,427	2,741
経常利益	17,448	12,729
特別利益	1,780	543
特別損失	3,382	1,392
税金等調整前当期純利益	15,847	11,880
法人税、住民税及び事業税	8,143	6,875
法人税等調整額	△761	△786
少数株主損失又は少数株主利益(△)	△319	217
当期純利益	8,146	6,007



■品目別売上高

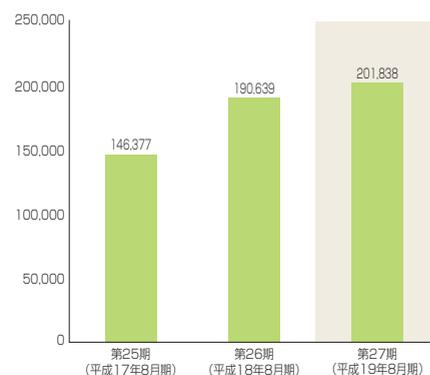
品目別売上高は、音響映像商品については、大画面薄型テレビ(液晶・プラズマ)の増加、その他アクセサリ、メディアなどの増加もあり、売上高は1,254億86百万円(前期比4.7%増)となりました。

家庭電化商品については、エアコンなど季節家電商品が上半期の暖冬により低調でありましたが、下半期は猛暑により回復し、また高性能・高付加価値・省エネ商品である洗濯機、調理家電、理美容家電などの年間を通じての好調推移により、売上高は711億70百万円(前期比8.4%増)となりました。

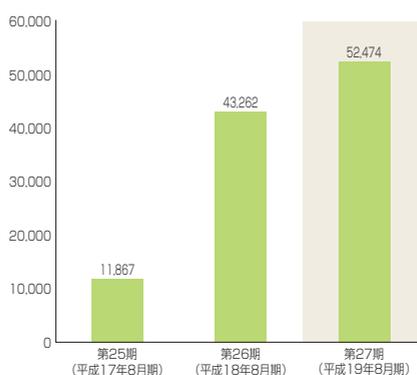
情報通信機器商品については、Windows Vistaの発売日が公表された以降の急激なパソコン本体の買い控えの発生が上半期はありましたが、パソコンソフト、パソコン周辺機器の販売が増加し、また株式会社ソフマップの連結効果もあり、売上高は2,230億円(前期比11.0%増)となりました。

その他の商品については、新型ゲーム機及びゲーム関連商品の販売好調に加え、株式会社ソフマップの中古商品の売上増もあり、売上高は1,208億79百万円(前期比34.9%増)となりました。

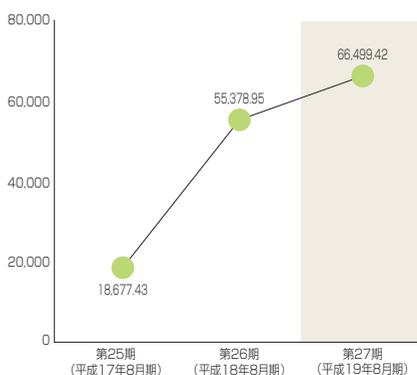
総資産(百万円)



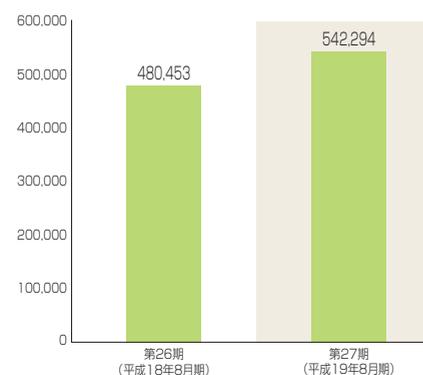
純資産(百万円)



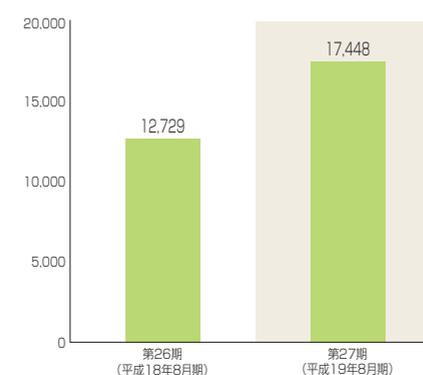
一株当たり純資産(円)



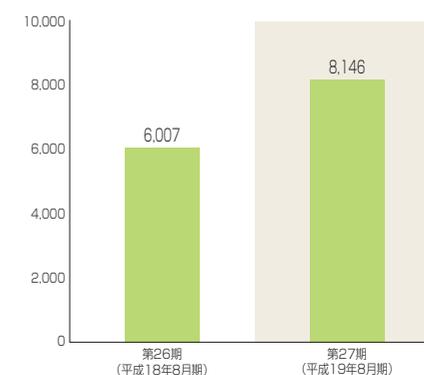
売上高(百万円)



経常利益(百万円)



当期純利益(百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	自平成18年9月1日 至平成19年8月31日	自平成17年9月1日 至平成18年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,136	7,336
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,702	△12,177
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,703	10,182
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	23
現金及び現金同等物の増減額	△11,275	5,364
現金及び現金同等物の期首残高	33,108	27,545
合併による現金及び現金同等物の増加額	158	198
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	19	—
現金及び現金同等物の期末残高	22,012	33,108

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は71億36百万円(前連結会計年度は73億36百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益158億47百万円、法人税等の支払額74億4百万円があったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は137億2百万円(前連結会計年度は121億77百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出47億円、投資有価証券の取得による支出59億10百万円、保証金の支払による支出32億83百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は47億3百万円(前連結会計年度は101億82百万円の収入)となりました。これは主に長期借入金の返済(収入と支出の差額)139億円があったものの短期借入金が107億49百万円増加したことによるものであります。

連結株主資本等変動計算書(自平成18年9月1日 至平成19年8月31日) (単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金			
平成18年8月31日残高	12,548	12,122	15,551	40,221	1,655	1,385	43,262	
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△756	△756	—	—	△756	
当期純利益	—	—	8,146	8,146	—	—	8,146	
新規連結による剰余金の増加高	—	—	5	5	—	—	5	
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	1,013	802	1,816	
連結会計年度中の変動額合計	—	—	7,395	7,395	1,013	802	9,211	
平成19年8月31日残高	12,548	12,122	22,947	47,617	2,669	2,187	52,474	

単体財務諸表

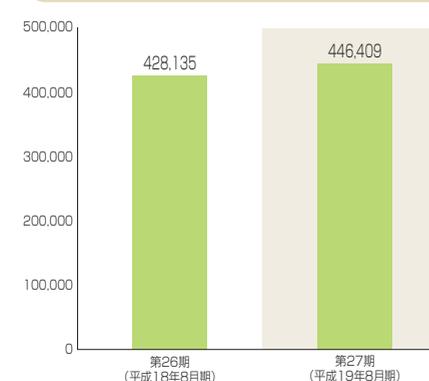
単体貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成19年8月31日現在	平成18年8月31日現在
資産の部		
流動資産	73,597	77,290
固定資産	98,246	88,669
資産合計	171,844	165,959
負債の部		
流動負債	96,524	89,439
固定負債	25,094	33,961
負債合計	121,618	123,401
純資産の部		
株主資本	47,555	40,853
資本金	12,548	12,548
資本剰余金	12,122	12,122
利益剰余金	22,885	16,183
評価・換算差額等	2,670	1,704
純資産合計	50,225	42,557
負債純資産合計	171,844	165,959

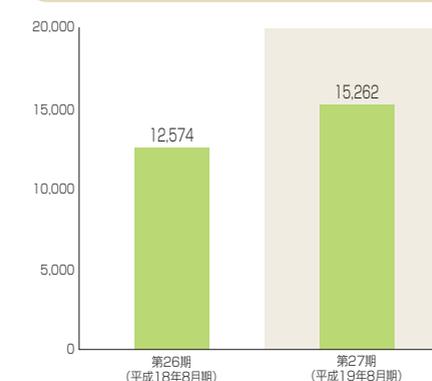
単体損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	自平成18年9月1日 至平成19年8月31日	自平成17年9月1日 至平成18年8月31日
売上高	446,409	428,135
売上原価	337,956	324,659
売上総利益	108,452	103,476
販売費及び一般管理費	95,162	92,478
営業利益	13,290	10,998
営業外収益	3,947	4,271
営業外費用	1,975	2,695
経常利益	15,262	12,574
特別利益	1,782	291
特別損失	2,859	677
税引前当期純利益	14,185	12,187
法人税、住民税及び事業税	7,493	6,257
法人税等調整額	△765	△656
当期純利益	7,458	6,587

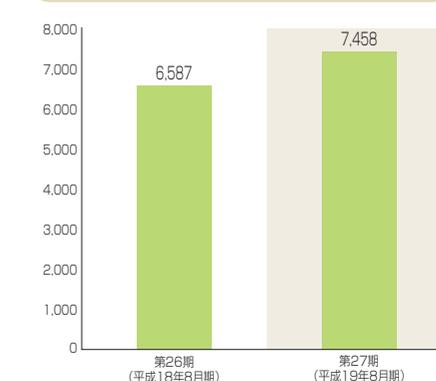
売上高(百万円)



経常利益(百万円)



当期純利益(百万円)



店舗展開

池袋地区のリニューアルについて

平成19年4月に、池袋東口総合館と、池袋東口カメラ館をリニューアルオープンいたしました。今回のリニューアルは、池袋東口総合館において、お客様からの要望が特に多かったパソコンの取扱いを開始し、加えてAV、家電等の品揃えの充実を図りました。池袋東口カメラ館においては、1階から8階までの全館を使ってカメラ本体から写真用品に至るまでの商品を集め今まで以上の選びやすさと、品揃えの充実を図りました。「フィルムからデジタルまで充実の品揃え」「フォトマスターによる体感できる売場と写真セミナー」など以前にも増して専門店化を追求した国内最大級の提案型カメラ専門店として生まれ変わりました。

池袋本店は、2ヶ月半におよぶ工事を終えて、内装 外装を一新。取扱商品も一部変更し、平成19年6月にリニューアルオープンいたしました。外装は、洗練された専門店をイメージさせるシンプルな白を基調にし、夜になると、多数のLEDが建物をライトアップし池袋の新しいランドマークとなりました。リニューアルにともない、従来取扱いしておりました自転車やゴルフ用品などのスポーツ関連商品をパソコン館池袋本店に移転し、パソコン関連商品の取扱いを開始するとともに、新たにオーディオコーナーに「高級オーディオ視聴ブース」を設置、また、家電コーナーを約2倍に拡大するなど、店内の商品構成の見直しを図り、商品の選びやすさの向上を図りました。



「ビックカメラ JR京都駅店」 平成19年8月オープン

JR京都駅西側になんば店に次いで関西地区2店舗目となる「ビックカメラ JR京都駅店」を平成19年8月に開店いたしました。「ビックカメラ JR京都駅店」は、京都駅30番線ホーム新改札口と2階で直結し、当社として、初めて駅のホームから直接店舗に入店できるこれまでにない利便性の高い店舗です。



【所在地】京都市下京区東塩小路町927番 【売場面積】約8,000㎡

「ソフマップ 秋葉原本館」 平成19年9月オープン

当社グループの株式会社ソフマップは、秋葉原地区を「ソフマップタウン」としての再編の核となる新店舗「ソフマップ 秋葉原本館」を平成19年9月に開店いたしました。「ソフマップ 秋葉原本館」は、基本コンセプトである「豊かさを感じる」「近未来を感じる」「楽しさが見つかる」を掲げ、品揃えも、パソコンをはじめ、大画面薄型テレビを中心としたビジュアル・オーディオ製品、デジタルカメラ、ゲームソフトはもちろんのこと、生活家電、理美容家電、時計まで揃えた総合店舗として、幅広い層のお客様のニーズにお応えいたします。



【所在地】千代田区外神田4-1-1 【売場面積】約4,600㎡

「ビックカメラ 岡山駅前店」 平成19年11月オープン

JR岡山駅前に「ビックカメラ 岡山駅前店」を平成19年11月に開店いたしました。本州と四国の連絡口としての機能を持つ西日本有数のターミナル駅である「岡山駅」の地下商店街一番街と直結し、雨にぬれずにお買い物ができる利便性の高い店舗です。



【所在地】岡山市駅前町1-1-1 【売場面積】約8,200㎡

「ビックカメラ 新横浜店」 平成20年3月移転オープン予定

当社の新横浜店はJR新横浜駅に建設中の新駅ビルに平成20年3月に増床・移転を予定しています。売場面積は、現在の約2,000㎡から、移転後は約3倍の約7,000㎡となり、より一層品揃えを強化し、お客様に更にご満足いただける店舗を目指します。



【所在地】横浜市港北区新横浜 【売場面積】約7,000㎡

JR浜松駅への出店について

平成20年秋を目処に、静岡県最大の人口を有し政令指定都市でもある浜松市のJR浜松駅西側高架下に、浜松駅西開発計画で新たに建設される商業施設に出店します。



【所在地】浜松市中区砂山町 【契約面積】約4,500㎡

JR新潟駅ビルへの出店について

平成21年2月を目処に、日本海側唯一の政令指定都市で、県庁所在地でもあります新潟市のJR新潟駅南口に、新たに建設される新潟駅南口ビル（仮称）に約10,600㎡の大型店を出店します。



【所在地】新潟市中央区花園 【契約面積】約10,600㎡

長期保有株主様向け株主優待制度新設のお知らせ

当社は、平成19年7月9日開催の取締役会において、現在の株主優待に加え、長期継続保有の株主様を対象とした、長期保有株主様向け株主優待制度（以下「長期優待制度」といいます。）を新設いたしましたので、お知らせいたします。

1. 長期優待制度新設について

当社は、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主様のご支援にお応えするために平成18年8月に株主優待制度を開始しましたが、この度保有期間に応じた長期優待制度を新設いたします。

<実施の内容>

保有期間	贈呈内容
連続3・4回保有（1株以上）	株主様お買物優待券1枚追加（1,000円券1枚）
連続5回以上保有（1株以上）	株主様お買物優待券2枚追加（1,000円券2枚）

2. 長期優待制度の内容

毎年8月及び2月末日の当社株主名簿及び実質株主名簿に、連続3回以上同一株主番号にて、記載又は記録された株主様を対象とし、毎年8月末日の株主様に対し現状の株主優待に加え、下記のとおり長期優待制度として、「長期保有株主様お買物優待券」を追加贈呈いたします。

3. 実施時期

平成19年8月31日現在の当社株主名簿及び実質株主名簿に、記載又は記録された株主様に発送する株主優待券（平成19年11月発送予定）より、実施いたします。

株式会社ベスト電器との業務・資本提携に関して

1. 業務・資本提携の目的

ビックカメラとベスト電器は、店舗展開エリアと店舗特性の相互補完関係があること、及び相互に強固な事業内容を有することから業務・資本提携により両社ともに企業価値の向上を図ることができると判断し、本提携にいたしました。

2. 業務提携の内容

業務提携の詳細については、今後、業務提携推進委員会の協議を経て確定していく予定ですが、両社の協議により、以下の事項について推進・検討していくことを基本的に合意しております。両社の既存の経営資源を、より有効に活用することで、スケールメリットと経営の効率化を主とした相乗効果を実現してまいります。

- ①修理センター・機能の相互利用
- ②物流ネットワーク・サービスの相互利用
- ③人材の相互交流
- ④オリジナル商品の共同開発
- ⑤スポーツ、玩具、酒類、寝具等の販売に向けた協力
- ⑥海外事業ノウハウの共有
- ⑦間接材の共同調達
- ⑧ポイントカタログの共通利用
- ⑨店舗運営ノウハウの共有

3. 資本提携の内容

平成19年10月5日に、株式会社ベスト電器の第三者割当増資に応じ、同社の発行済株式総数の9.33%を取得しております。

会社概要

会社名	株式会社ビックカメラ
設立年月日	1980年11月
資本金	12,548百万円
従業員数	3,673名
本社	東京都豊島区高田三丁目23番23号
主な事業内容	カメラ、パソコン、OA機器、ビジュアル製品、オーディオ、通信機器、家電製品、時計・宝飾、メガネ・コンタクト、うもうふとん、酒、ギフト用品、玩具、スポーツ用品、スポーツサイクル等の販売

取締役及び監査役 (平成19年11月29日現在)

代表取締役会長	新井隆二
代表取締役社長	宮嶋宏幸
常務取締役	金澤正晃
常務取締役	塚本智明
常務取締役	堀越雄之
常務取締役	湯本善之
常務取締役	嶋田史雄
常務取締役	目時剛
取締役	野口進
取締役	曾我邦夫
取締役	加藤周二
社外取締役	児島仁
社外取締役	有田龍郎
社外取締役	生井俊重
社外取締役	久保允誉
常勤監査役	伊藤秀行
社外監査役	小松英士郎
社外監査役	岸本裕紀子

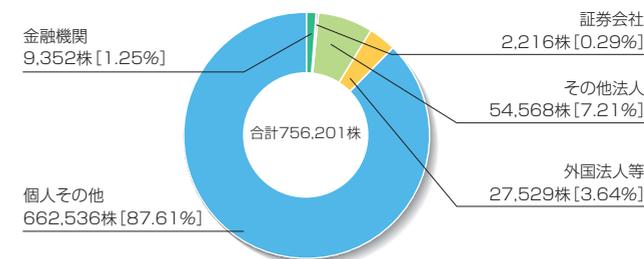
株式の状況

●発行可能株式総数	2,541,000株
●発行済株式の総数	756,201株
●株主数	38,151名

大株主

株主名	持株数(株)
新井隆二	547,409
株式会社エディオン	22,686
株式会社東京放送	16,795
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・ビーエルシー	6,520
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,262
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	3,624
クレジット・スイス・ファースト・ポストン・ヨーロッパ・ビービー・セク・アイヌティ・ソントリーティ・クライエント	2,531

所有者別株式分布状況



所有株数別分布状況

